

学道の人身心を放下して

仏道を学ぶ人は、身も心も投げ捨てて、ひたむきに仏法の中に入りなさい。

古人は

「百尺の竿頭(かんとう)にあつてさらに一步を進める。」

と言っている。

人間というものは、いかにも百尺の竿の先にのぼると、ここで足をふみはずしたら死んでしまう
と思つて、いっそう強くしがみつゝく気持ちがあるものである。そこをかへつて

「思い切って一步を進める」

と言っているのは

「教えに従うのであるから、まさか悪い事にはなるまい。」

と思ひ切って、すべてを投げ出すように、世渡りの仕事をはじめとして、自分の生活の手段に至る
までも、捨ててしまえばよいのであるが、それがどうしても捨てられないのである。しかし、その
最後のところを捨てないうちは、どんなに、髪の毛についた火をはらうような気持で仏道を学んで
いるようであっても道を得ることはできないのである。思い切って身も心もともに捨て去るべきで
ある。

引用 正法眼蔵随聞記 4-1 学道の人身心を放下して

新潟県柏崎市 大光寺副住職 小山 貴大